平成25年度　新発田市遺跡出土品展

平成26年3月1日[土]～3月9日[日]／新発田市立図書館　坪川記念室

主催：新発田市教育委員会

ごあいさつ

新発田市は、日本海の海岸線から飯豊連峰の山頂まで、高低差のある様々な地形がみられます。この広い範囲から多くの遺跡が発見されており、その数は700ヶ所にものぼります。

昭和42年以来実施している、開発事業に先立つ本格的な発掘調査は80ヵ所以上（旧市町村分を含む）におよび、旧石器時代から江戸時代に至るさまざまな調査成果から、私たちの足元に埋もれていた新発田の歴史が徐々に明らかとなってきています。

このたび、新発田市教育委員会では、発掘調査の成果を広く市民のみなさまに公開するために、平成24年度に調査報告書をまとめた新発田城跡・下山田道下遺跡を中心に、25年度に発掘調査を実施した住吉遺跡・板山館跡の現場写真も合わせて展示いたします。どうぞごゆっくりとご覧いただき、悠久の歴史に思いをはせていただければ幸いです。

■　平成25年度の遺跡発掘調査

【本発掘調査】

住吉遺跡（中島）

板山館跡（板山）

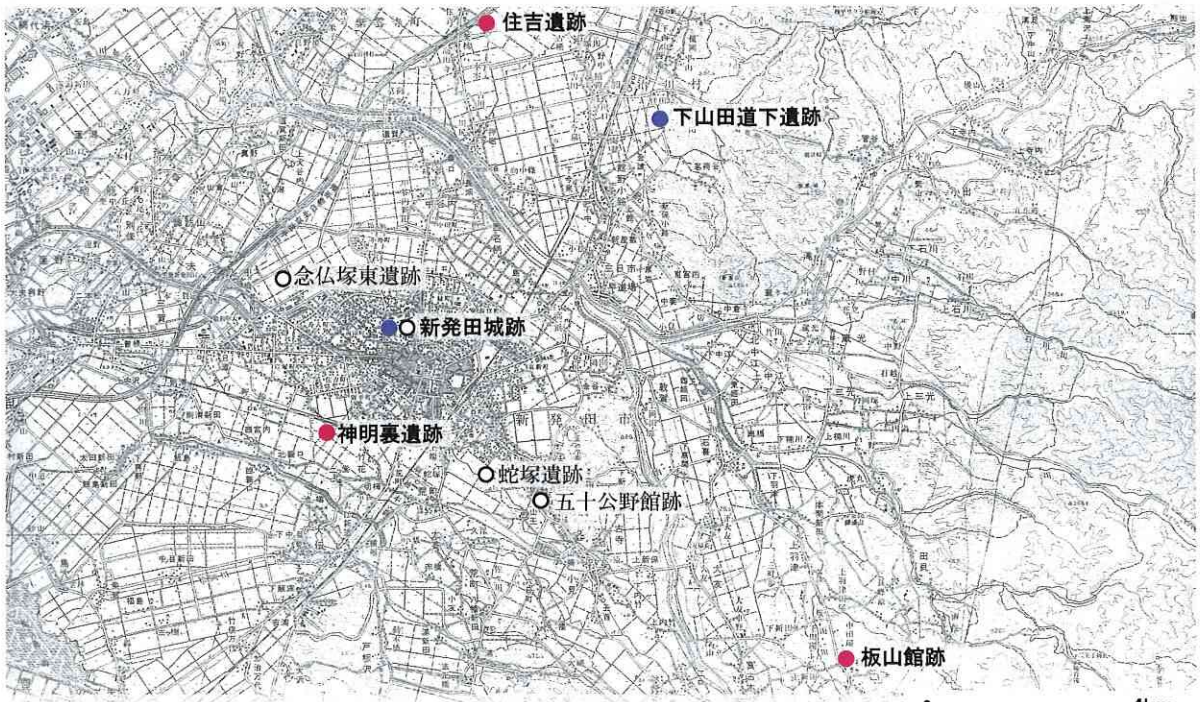
神明裏遺跡（弓越）

【試掘・確認調査】

五十公野館跡（五十公野）、新発田城跡第26・27地点（大手町）、念仏塚東遺跡（舟入）、蛇塚遺跡（五十公野）

【24年度整理作業完了】

新発田城跡第21地点・下山田道下遺跡（下山田）



遺跡の位置　<24年度> ●報告書刊行遺跡　<25年度> ●本発掘調査、○試掘確認調査

■ 新発田城跡（しばたじょうあと） 第21地点

所 在 地：新発田市大手町6丁目 ほか
調査原因：陸上自衛隊新発田駐屯地 施設建設
調査面積：1，121㎡
調査期間：平成23年8月1日～10月21日

○遺跡の概要

新発田城跡は、市街地の中心部に所在します。今から約400年前に、初代新発田藩主の溝口秀勝侯により築城が開始され、三代宣直（のぶなお）侯のときに完成した五角形の本丸とそれを取り囲む二ノ丸、二ノ丸の南東に張り出した三ノ丸による細長い城郭です。現存する本丸石垣と表門、昭和35年に本丸の鉄砲櫓跡へ移築復元した二ノ丸隅櫓、平成16年に復元した辰巳櫓、三階櫓が城址公園として整備されています。新発田城跡は、これまでに20数箇所で発掘調査がおこなわれています。第21地点の調査は、陸上自衛隊新発田駐屯地白壁兵舎史料館の移築建設に伴って実施しました。

調査地点は西ノ門の南東約150m付近で、二ノ丸の屋敷地と土塁、外堀にあたります。

調査地点は、江戸時代後半の絵図では「堀丈大夫（ほりじょうだゆう）」という重臣の屋敷地でした。また、他の絵図・測量図を比べると、今回の調査地点付近の土塁上に江戸時代中頃まで一辺が四間半（8.1m）の櫓が建っていたことがわかります。その櫓は少なくとも2回の焼失と再建を繰り返し、江戸時代末期には、西ノ門側に場所を移して建て直されました。明治7（1874）年の測量図にも二ノ丸の堀や土塁、移転後の櫓が描かれています。その後、明治23年までには、二ノ丸の土塁は整地され、堀は埋め立てられました。

○発掘調査の概要

今回の調査地点からは、二ノ丸屋敷地の跡とその西側から堀跡が見つかりました。屋敷地跡では、江戸時代および平安時代・室町時代の土坑46基、井戸1基、溝7条などを調査しました。室町時代の土坑では、室町時代の古銭・漆器を納めた墓2基と火葬人骨が出土した墓が1基、15個もの水晶の数珠（じゅず）の珠（たま）を納めた小穴が見つかりました。古銭はいずれも6枚ずつで、いわゆる六道銭です。

堀は、幅22m、深さ1.7m以上の大きさで、両岸には杭で固定した護岸用の横木も残っていましたが、土塁やその上の櫓の痕跡は、明治時代の整地で失われ確認できませんでした。堀の東岸では堀の肩から幅約5mの範囲内で、平安時代～室町時代の溝や土坑が良好な状態で見つかりました。いずれも江戸時代以前の遺構で、江戸時代に建物や土坑が作られることなく土塁の下に埋まっていたことで残ったと考えられます。

また、想定される土塁の内側の屋敷地跡から直径3～4m程の土坑が多く発見されました。これらには江戸時代前半から中頃の遺物が出土する土坑と、江戸時代後半から末期の遺物が出土する土坑とがあります。古い土坑の時期は、付近に櫓が建っていた頃の可能性があります。新しい土坑は、廃城時か、もしくは明治時代になって土塁を崩して堀を埋め

新発田城跡 第21地点　堀跡の調査

木製品の出土状態

た頃に不要になったものを埋めた穴とみられます。

○主な出土品

土坑や堀からは、江戸時代の木製品、陶磁器類が多数出土しました。地下水位が高いため、木製品がよい状態で残り、居住者である「堀」氏の姓を示した焼印、墨書が記された木札や箱蓋、江戸時代末期の「萬延元」(1860)年の年号が記された木札などが発見されました。また、多数の下駄、桶・樽類、漆器類が出土し、桶や曲物の蓋とみられる円形の板には「塩鱈子」・「御水飴」・「濁醤」(しょう油)など内容物の食品・調味料を指す墨書、焼印があり、当時の暮らしの一端を見ることができます。

江戸時代の陶磁器類では、日本中に広く流通する肥前(伊万里焼)や、幕末に流通量が増える瀬戸美濃の陶磁器、西日本産の京・信楽系陶器、萩焼などが出土しています。また、大形の甕・すり鉢・鉢類・土瓶・徳利・碗などの陶器は、江戸時代末期には越後を含む東北各地でも生産されるようになりました。中には、江戸時代前期を起源とした比較的古いものとして、福島県浜通り地方の相馬駒焼・大堀相馬焼、会津地方の会津本郷焼があり、肥前や瀬戸美濃の陶磁器とともに、越後や東北各地の近世陶器窯の成立に影響を与えています。しかし、新発田城跡から出土した陶器には、正確な産地を特定できないものも少なくありません。

出土した大堀相馬焼 徳利・土瓶、相馬駒焼 沓茶碗

■ 下山田道下遺跡

所 在 地:新発田市下山田1000番地 ほか
調査原因:県営ほ場整備事業(加治川地区)
調査面積:606 ㎡
調査期間:平成23年6月2日～7月20日

○遺跡の概要

下山田道下遺跡は、櫛形山脈南西部の茗荷谷集落から流れる緋雉川によってつくられた微高地に立地します。遺跡全体の広さは長さ500m・幅150m、面積65,000㎡の広大な範囲です。今回発掘調査を行ったのは、ほ場整備の水路工事で掘削される幅2.5m、延長243mの細長く限定された範囲です。

○発掘調査の概要

今回の発掘調査範囲は、遺跡の東端部分のみで、集落の全体像を明らかにすることはできませんでした。発見した遺構は小規模な溝で、畑の跡の可能性があり、住居などの周辺に耕作地を配した当時の集落の様子がうかがえます。

出土した遺物は、平安時代の土師器・須恵器・黒色土器といった焼物が大半を占めますが、文字や記号などを墨で書いた土器(墨書土器)や、斎串と呼ばれるまじない用の木の道具も見つかりました。

また、発掘調査の面積が狭いながらも、緑釉陶器や石帯、漆紙など他の集落では希少な遺物も出土していることは大きな特徴です。これらからは有力者の存在が推察され、本遺跡は、土地開発の中心を担った人々の集落であったと考えられます。

下山田道下遺跡の発掘調査

■ 住吉遺跡（すみよし）

所 在 地：新発田市中島字住吉108番地 ほか
調査原因：県営ほ場整備事業（紫雲寺2期地区）
調査面積：2，820 ㎡
調査期間：平成25年5月16日～12月27日

○遺跡と調査の概要

紫雲寺潟（塩津潟）に注ぐ河川により作られた自然堤防の東側に立地する鎌倉時代の遺跡で、調査の結果、多数の井戸跡などを発見しました。

住吉遺跡の発掘調査

■ 板山館跡（いたやまやかたあと）

所 在 地：新発田市板山字舘ノ越2279番地1 ほか
調査原因：県営ほ場整備事業（加治川右岸地区）
調査面積：1，878 ㎡
調査期間：平成25年5月29日～12月25日

○遺跡と調査の概要

板山川右岸に立地する、室町時代から江戸時代前期の館跡で、堀に囲まれた1辺約60mの方形の敷地内から多数の柱穴が見つかりました。

板山館跡の堀・川跡

■ 新発田城跡（しばたじょうあと） 第27地点（土橋石垣）

所 在 地：新発田市大手町4丁目7－1番地
調査原因：遺跡の状況確認のための範囲確認調査
調査面積：70 ㎡
調査期間：平成25年10月21日～10月30日

○遺跡の概要

平成24年度に実施した旧県立新発田病院解体工事に際して発見された石垣について詳しい状況を把握するために確認調査を行いました。調査地は二ノ丸土橋門（つちはし）にかかる土橋の東側面にあたります。江戸時代後期の絵図にも描かれた石垣です。

○発掘調査の概要

発掘された石垣は高さ1.4m、長さは12mで、さらに北側の市道下に延びると推定されます。石材は市内五十公野（いじみの）に産する古寺石（ふるでらいし）の割石を用い、「打（う）ち込（こ）み接（は）ぎ」積みにより、3～4段の石垣が積まれていました。

新発田城跡　土橋石垣

平成25年度　新発田市遺跡出土品展
展 示 解 説

発行日：平成26年3月1日
編集・発行：新発田市教育委員会
〒959-2323
新潟県新発田市乙次281番地2
電話　0254-22-9534